【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第６部門第１区分
【発行日】平成19年4月19日(2007.4.19)

【公表番号】特表2006-521559(P2006-521559A)
【公表日】平成18年9月21日(2006.9.21)
【年通号数】公開・登録公報2006-037
【出願番号】特願2006-507981(P2006-507981)
【国際特許分類】
Ｇ０１Ｎ　33/543　(2006.01)
Ｇ０１Ｎ　33/544　(2006.01)
Ｇ０１Ｎ　37/00　(2006.01)
【ＦＩ】
Ｇ０１Ｎ　33/543　５２５Ｇ
Ｇ０１Ｎ　33/543　５２５Ｅ
Ｇ０１Ｎ　33/544　Ａ
Ｇ０１Ｎ　33/543　５９７
Ｇ０１Ｎ　33/543　５９５
Ｇ０１Ｎ　37/00　１０２

【手続補正書】
【提出日】平成19年2月23日(2007.2.23)
【手続補正１】
【補正対象書類名】特許請求の範囲
【補正対象項目名】全文
【補正方法】変更
【補正の内容】
【特許請求の範囲】
【請求項１】
標的分子を、標的分子と相互作用することができる固体支持体表面に固定する方法であって：
標的分子と、標的分子と解離可能な複合体を形成することができる小胞構造との複合体を形成する工程、
形成された複合体と、固体支持体表面とを接触させ、標的分子を固体支持体表面に結合させる工程、
複合体を解離する工程、および
固体支持体表面から小胞構造を除去し、固体支持体表面に固定された標的分子を切り離す工程、
を含む、上記方法。
【請求項２】
小胞構造は、リポソームまたはミセルであり、好ましくはミセルである、請求項１に記載の方法。
【請求項３】
標的分子と小胞構造とは、対立する電荷を有する、請求項１または２に記載の方法。
【請求項４】
標的分子と固体支持体表面とは、同種の電荷を有する、請求項１～３のいずれか一項に記載の方法。
【請求項５】
標的分子は、負電荷を有する、請求項１～４のいずれか一項に記載の方法。
【請求項６】

標的分子と固体支持体表面とはそれぞれ負電荷を有し、小胞構造は、正電荷を有する、請求項１～５のいずれか一項に記載の方法。
【請求項７】
標的分子は、分析物を結合させることができるリガンドである、請求項１～６のいずれか一項に記載の方法。
【請求項８】
標的分子は、リガンドまたはリガンド結合物質を結合させることができるキャプチャー物質である、請求項１～６のいずれか一項に記載の方法。
【請求項９】
標的分子は、核酸または抗体であり、好ましくはオリゴヌクレオチドである、請求項１～８のいずれか一項に記載の方法。
【請求項１０】
標的分子は、人工核酸であり、好ましくは人工オリゴヌクレオチドである、請求項９に記載の方法。
【請求項１１】
標的分子は、低分子量の有機化合物である、請求項１～８のいずれか一項に記載の方法。
【請求項１２】
固体支持体表面は、標的分子の官能基と反応して共有結合を形成することができる反応性基を含む、請求項１～１１のいずれか一項に記載の方法。
【請求項１３】
固体支持体表面は、特定の結合対の一方の要素を含み、その結合対の他方の要素は、標的分子またはその一部と共役している、請求項１～１１のいずれか一項に記載の方法。
【請求項１４】
表面に結合した要素は、アビジンまたはストレプトアビジンであり、そして標的分子は、ビオチンタグを付されている、請求項１３に記載の方法。
【請求項１５】
固体支持体表面は、ヒドロゲル、好ましくはデキストランベースのヒドロゲルを含む、請求項１～１４のいずれか一項に記載の方法。
【請求項１６】
デキストランは、カルボキシメチル基を含む、請求項１５に記載の方法。
【請求項１７】
カルボキシメチル基が、活性化されて反応性基になる、請求項１６に記載の方法。
【請求項１８】
ミセルまたはリポソームに対する標的分子の割合は、約１：１である、請求項１～１７のいずれか一項に記載の方法。
【請求項１９】
小胞構造は、臭化セチルトリメチルアンモニウム（ＣＴＡＢ）を含むミセルである、請求項１～１８のいずれか一項に記載の方法。
【請求項２０】
フローセルで行われる、請求項１～１９のいずれか一項に記載の方法。
【請求項２１】
固体支持体は、センサー表面である、請求項１～２０のいずれか一項に記載の方法。
【請求項２２】
センサー表面は、質量センシングによる、好ましくはエバネッセント波に基づいた（例えばＳＰＲ）、センサー表面における事象の検出が可能である、請求項２１に記載の方法。
【請求項２３】
固体支持体は、クロマトグラフィー用の粒子である、請求項１～２０のいずれか一項に記載の方法。

【請求項２４】
請求項１～２３のいずれか一項に記載の方法に従ってリガンドを結合させることができるキャプチャー物質を表面に固定すること、続いて、該表面と該リガンドとを接触させ、該リガンドを固定された該キャプチャー物質に結合させることを含む、固体支持体表面をリガンドでセンシタイズする方法。
【請求項２５】
キャプチャー物質はオリゴヌクレオチドであり、リガンドは、キャプチャーオリゴヌクレオチドに相補的なオリゴヌクレオチドと共役している、請求項２４に記載の方法。
【請求項２６】
一般的なキャプチャー物質を支持している固体支持体表面の異なる別々のエリアを、選択的に異なるリガンドと接触させ、異なるリガンドのアレイを固体支持体表面に提供する、請求項２４または２５に記載の方法。
【請求項２７】
異なるキャプチャー物質をそれぞれ支持している固体支持体表面の異なる別々のエリアを、異なるリガンドと接触させ、異なるリガンドのアレイを固体支持体表面に提供する、請求項２４または２５に記載の方法。
【請求項２８】
固体支持体表面は、センサー表面である、請求項２４～２７のいずれか一項に記載の方法。
【請求項２９】
請求項２４～２８のいずれか一項に記載の方法で製造された固体支持体表面（好ましくはセンサー表面）上で少なくとも１種のリガンドに結合することができる少なくとも１種の分析物に関してサンプルを分析するための、前記固体支持体表面の使用。
【請求項３０】
請求項２４～２８のいずれか一項に記載の方法で製造された固体支持体表面（好ましくはセンサー表面）上での、少なくとも１種の分析物と少なくとも１種のリガンドとの相互作用を研究するための、前記固体支持体表面の使用。